

## 熊本県立八代中学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

## 1 学校教育目標

「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「令和3年度(2021年度)義務教育課取組の方向」を基盤として本校の綱領である  
 ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.  
 ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.  
 ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.  
 を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。

## 2 本年度の重点目標

- ① グローバル人材育成プログラムの更なる充実（知の触発プログラム・アクションプログラムの推進と精選等）
- ② 新学習指導要領を踏まえた指導方法の実践と更なる改善（主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用等）
- ③ 学校の魅力向上と発信の充実
- ④ 中高一貫6か年のグランドデザインの完遂
- ⑤ 学校における働き方改革の推進

## 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	グローバル 人材の育成	◇グローバ ルマインド並 びにグロー バルスキル の向上	○総合的なコミュ ニケーション能力 育成のために、学 校設定科目「対話 力」を効果的に実 施する。 ○各種ボランティ ア活動への自主 的参加者年間延 べ150名以上を 目指す。	•NIE、ディベート、MI SE、ビブリオバトル、 知の触発等の活動を 充実させ、言語活用能 力やコミュニケーション 能力の伸長を図る。 •活動の最新の様子に ついて、HPで常に公 開する。	A	対話力の授業におけ る言語能力の育成は 円滑に行うことができ た。知の触発講演会 はZOOMを利用して計 画通りに実施できた。 学校評価アンケート での評価も高かった。 コロナ禍の影響もあり、 各種ボランティアの自 主的参加人数は150 名には届かなかった。
	中高一貫教 育の推進	◇中高一貫 6か年グラン ドデザインの 完遂	○質の高い中高 一貫校としての教 育課程を編成す る。 ○各教科が6年 間に渡る教科指 導の流れを示した グランドデザイン を作成する。 ○「対話力」の授 業をホームページ にアップする。	•「対話力」についてよ り効果的な実施とい う観点から計画を見直 し、内容を精選する。 •グローバル改革推進 部を中心にグランドデ ザインを検討し完成す る。 •英検対策や知の触発 プログラム講演会をタ イムリーにホームページ にアップする。	B	•生徒のニーズに対応 した授業内容を実践し たため、「英検対策」等 の英語の先生に負担 のかかる内容になってしまった。 コミュニケー ション能力を高める新 たな授業の構築が課 題である。 •HPへの掲載は実施 内容の7割程度はアッ プできた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善及び働き方改革の推進	◇勤務時間の適正管理 ◇業務の削減・効率化	○月の時間外在校等時間の上限(月45時間)以内の割合を前年度比で3ポイント増加させるとともに、上限時間を意識した働き方を推進する。 ○朝礼を週1回(月)実施とし計画的な業務遂行を促すとともに、専門家の活用を推進する。	・タイムカード等による勤務時間の適正管理等に加え、管理職や産業医による面接を充実させる。 ・ClassiやGoogleアプリを活用した情報共有を推進し、業務効率化を図る。 ・SC、SSW、部活動指導員等の専門的人材を積極的に活用する。	B	・タイムカード等により在校時間を把握し、長時間勤務が認められる教職員には管理職による面談を行うとともに、必要に応じて産業医による面接を行った。 ・月の時間外在校等時間の上限以内の割合は前年度が66.1%であったのに対し今年度は57.0%(12月末現在)であった。 ・GIGAスクール構想に伴い、Googleアプリ等を活用した校務情報化のスキームを構築しているところである。 ・SCの活用については12月までに生徒19件、保護者4件の相談があった。SSWに関しては状況に応じて派遣を要請し、支援につなげている。 ・部活動指導員を1人配置し、生徒の技術の向上や教職員の負担軽減に成果を上げている。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用学力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパー・ティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。	A	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るため、7月と11月に公開授業週間を設定した。また、2学期以降はお互いの授業を自由に参観できるようにした。8割の職員が授業改善に意欲的に取り組んでいるとの回答であった。また、「生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている」の項目に対する生徒の肯定的回答は、94.6%(平均3.6)と高評価であった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、60%以上の生徒が目標を達成している。	・各学年における適切な目標学習時間を再検討する。 ・年3回、期末考査前に宅習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	B	・宅習時間調査を行うことで家庭学習への意識付けを行った。学校評価アンケートにおいて、「目標とする家庭学習時間を確保できている」に肯定的回答をした生徒は60.8%であった。 ・学年が上がるにつれて、宅習時間が減少している。特に、中学3年の学習意欲を高める対策が必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供を行う。	B	・1年で大学の概要を知り2年で進路資料を用いて学部学科を調べ3年で面談を通じ目標の明確化を図った。 ・新傾向入試に対応する総合学力調査受験を行った。
	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	A	・1年は八代学で地域社会の課題への認識を深め提案をレポートにまとめた。2年は企業の講演会を4回実施し職業観と勤労観を涵養した。3年は卒論執筆を通して進路意識を高めた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整備を自ら行うことができる生徒を育成する。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・年間3回整容指導実施。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。 ・教員同士及び教員と保護者との情報交換を密に行う。	B	・年3回整容指導を実施するとともに、日常的に整容面への指導を行った。 ・朝から遅刻して登校する生徒が増加し、改善することができなかつた。 ・問題行動、校則違反、交通事故などが発生しているが、保護者と密な情報交換をしながら、全職員で連携し細やかに対応した。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	自治的活動の推進	◇自治活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○各部会の部長を中心に年間計画に沿った月ごとの目標と具体的な活動内容を設定し、全校生徒が自治会活動に参加できる体制をつくる。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・あいさつ運動やボランティア活動を積極的に推進する。 ・生徒自治会執行部及び部長によるミーティングを月1回実施する。	A	・月初めに全校集会、月末に部会を定期開催し、全校生徒が自治会活動に携わる機会を設けた。 ・生徒自治会が主体的に歓迎行事やクラスマッチをはじめとする様々な行事を企画・運営した。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめあらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習を各学年ごとに学期1回実施する。 ・校内人権集会を年2回実施する。 ・地域主催の人権同和教育研究集会(原則全員)や現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。	A	・各学年ごとに計画し、1学期はハンセン病問題、水俣病問題、男女共同参画社会に関する学習を行った。 ・人権集会では、差別の構造についての認識を深めた。 ・八代市の人権集会や現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。
	生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の教育支援計画と指導計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開く。 ・個別の教育支援計画と指導計画を立て、それに基づき支援する。	A	・人権教育部会では特別支援体制の見直しと支援が必要な生徒に関して、共通理解を図った。中学部会等で定期的に情報交換を行い、丁寧な対応を実施した。 ・特別支援教育委員会を開き、個々に応じた支援体制の充実を図った。 ・生徒理解の職員研修を開き、生徒一人一人の把握に努めた。
	命を大切にする心を育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていくとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・授業や講話を通じて、自分や周りの命を大切にする心を育む指導を行った。 ・2学期に全学年でAプロック人権同和教育研究授業を実施した。他校の先生にも授業を参観してもらい、人権感覚を育む指導を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査によりいじめの早期発見を行う。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握や早期対応を行い、SCや関係機関との連携を図る。	B	・教育相談週間や学期に1回行う心のアンケートをもとに、聞き取りや対応を早期に行い、その経過をいじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策に努めた。 ・教育相談や生徒理解研修を年2回実施し、生徒の情報を共有し、支援体制を再構築した。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して、育成を目指す生徒像の共有を図り、地域と連携・協働した取組を推進する。	・総合的な学習の時間において、地域と連携した探究活動を推進する。 ・生徒の安全・安心を確保するため、地域の理解と協力を得ながら、防災避難訓練を実施する。	A	・地域の方々の協力を得ながら探究活動に取り組むことができた。地域の団体・企業・行政との連携がまだまだ不十分であり、その継続性にも不安がある。 ・シェイクアウト訓練は1回実施。また3学期に実施予定の津波を想定している避難訓練は各学年クラスで対応する予定である。

#### 4 学校関係者評価

- ・中高一貫教育の推進に関して、英語授業の充実を図るために、習熟度別授業を取り入れても良いのではないか。
- ・学年が上がるごとに宿題時間が減少するという点が気になった。高校受験がないことと学習意欲の向上を両立させるためには、真の学びの喜びを感じさせる以外にないと思う。
- ・3年生の学習意欲を高める具体的方法について検討をする。
- ・生徒の自発的な学習の促進について、中学校入学者にとって入試なしで併設型高等学校に入学できることが利点である一方、課題にもなっているのではないか。内部試験など検討してはどうか。
- ・朝の遅刻は大変気になる。学習状況と同様、高校受験がないことで緩みが生じる可能性はあるのかもしれない。
- ・遅刻にはコロナ禍による生活リズムの乱れ、登校への不安など諸々の要因が考えられる。家庭と連携する、協力を得ることも不可欠であると思われる。
- ・外部への挨拶が少なくなったと感じる。
- ・いじめはいじめる側が問題であることを徹底し、いじめた側へのカウンセリングシステムを設ける等、先進の対策が必要である。
- ・PTA会長の立場で、保護者からいじめに関する事案について聞くことがあった。可能な範囲で学校運営協議会で共有できれば良いと思う。
- ・学期に1回のアンケートだけでなく、formsなどを使って常に先生に相談できる窓口を作つておいても良いのではないか。
- ・高校からは他の中学校出身者が多いという状況の中、公平性を維持しながらどのようにして中高一貫教育を目指すのかという点について、悩ましいと思われているのではないかと思う。
- ・アンケートで高校教員が難しく感じている「中高一貫教育校としての組織体系が確立され中高連携の取組が円滑に行われている」が気になった。この項目は中学校教員も更に難しいと感じている。このことは、八代中学校・八代高等学校の根幹なので最も取り組むべきではないかと思った。
- ・中学校の募集定員が減になったことに伴い、高校進学時のクラス編成のあり方を見直す必要があるのではないか。(1年次中進クラス2学級、数学の先取り学習等)
- ・新型コロナの影響で、様々な活動・活躍が制限され、子供達の力が出せなかつた1年になって残念である。それでも、1人1台タブレットの導入、GIGAスクール構想に伴う新たな授業の進め方からの生徒の学習意欲の変化も楽しみにしている。

## 5 総合評価

- ・教育活動全般に関して、生徒・保護者・教職員へのアンケート及び学校関係者評価においておおむね高い評価を得た。特に、グローバル人材育成の取組、地域と連携した探究活動、人権教育及び特別支援教育の推進についての評価が高かった。
- ・家庭学習時間の確保について、自己評価で不十分としている生徒が4割弱おり、宅習時間調査においても学年が進むにつれて宅習時間が減少している傾向が見られる。
- ・基本的生活習慣の確立、いじめの未然防止と早期対応等について、家庭とも連携して全職員で取り組んでいるところであるが、学校関係者評価において、より一層の充実を期待する意見があった。
- ・中高一貫教育校としての組織体制の確立、中高連携の取組に関して、7割の職員が不十分だと考えている。このことは、学校関係者評価においても重要な課題ではないかとの指摘を受けている。

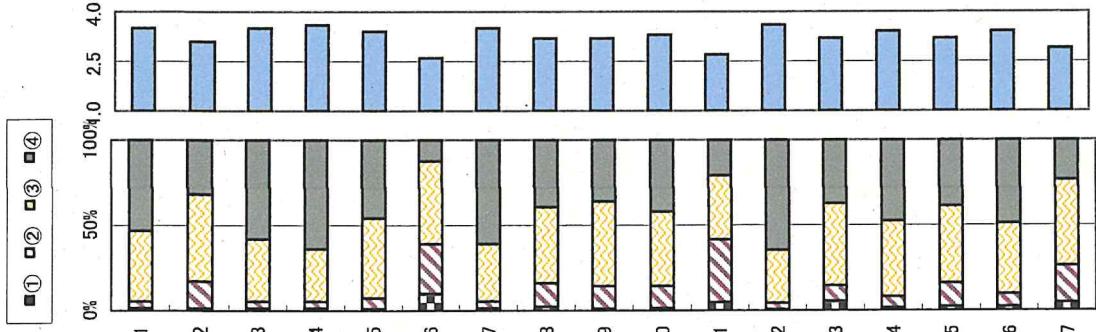
## 6 次年度への課題・改善方策

- ・グローバル人材育成の取組、地域と連携した探究活動、人権教育及び特別支援教育の推進に関しては、現在の取組を今後も継続するとともに、更なる充実に向けプラスアップを図る。
- ・生徒の自発的な学習の推進に向けて、併設型中高一貫教育校の特色、また学年が進むにつれて宅習時間が減少している現状を踏まえ、生徒が学ぶ喜びや意欲を感じられるような取組を工夫する。
- ・基本的生活習慣の確立に向けて、引き続き家庭との緊密な連携のもと指導を行うとともに、不登校傾向の生徒に対して、外部専門家とも連携した支援及び学習保障を行う。また、生徒の現状について、可能な範囲でPTAと情報共有を図り、協調した指導・支援に努める。
- ・中高が一体となって校務運営を行うことができるよう組織体制を見直すとともに、職員の意識改革を図る。また、各教科、分掌等における中高それぞれの取組について共通理解を図るとともに、中高の接続が円滑に行われるよう、取組内容の工夫・改善を図る。さらに、IB導入に向けた準備を着実に進める。

## 令和3年度 学校評価 集計表 <生徒>(中学校)

	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり當て はまらない (2点)	③ やや當て はまる (3点)	④ よく當て はまる (4点)	回答 数	平均
① 知の触発プログラム、ビブリオバトル、英検対策等の取組には、言語能力を伸ばすのに役立っている。	1.6	3.8	41.4	53.2	186	3.5
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	1.6	15.6	51.1	31.7	186	3.1
③ 八中には、他の学校にはない校風・特色がある。	1.6	3.8	36.6	58.1	186	3.5
④ 学校では、生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている。	1.6	3.8	30.8	63.8	185	3.6
⑤ 学校では、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行ってくれている。	1.1	6.5	46.8	45.7	186	3.4
⑥ 私は、目標とする家庭学習時間を確保できている。	10.2	29.0	48.4	12.4	186	2.6
⑦ 学校では、総合的な学習の時間や学活などで、自らの進路を考える活動が行われている。	1.6	3.8	33.9	60.8	186	3.5
⑧ 学校では、進路に関する情報をわかりやすく提供してくれる。	2.2	14.0	44.6	39.2	186	3.2
⑨ 学校では、決まりやルールを守るために啓発活動が行われている。	1.1	13.4	49.5	36.0	186	3.2
⑩ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を心がけている。	1.6	12.9	43.5	41.9	186	3.3
⑪ 私は、生徒自治会活動に関心を持って積極的に参加している。	4.9	36.8	37.8	20.5	185	2.7
⑫ 学校では、大切さについて学ぶ機会がある。	0.5	3.8	31.2	64.5	186	3.6
⑬ 先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	5.4	9.2	48.1	37.3	185	3.2
⑭ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	1.6	6.5	44.3	47.6	185	3.4
⑮ 学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	2.2	14.0	45.2	38.7	186	3.2
⑯ 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	2.2	7.5	41.4	48.9	186	3.4
⑰ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	4.8	21.5	50.5	23.1	186	2.9

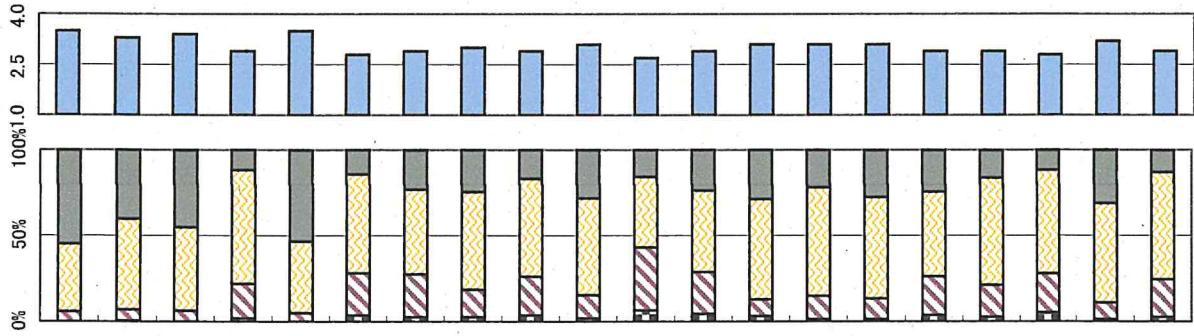
(%) (人)



## 令和3年度 学校評価 集計表 <保護者>(中学校)

	① 全く当 たまらない (1点)	② あまり當 たまらない (2点)	③ やや當 たまると はまる (3点)	④ よく當 たまると はまる (4点)	回答 数	平均
1 知の触発プログラム、ビブリオノトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	0.0	5.7	39.5	54.8	157	3.5
2 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.6	6.4	52.9	40.1	157	3.3
3 ハ中には、他の学校にはない校風・特色がある。	0.0	6.4	48.4	45.2	157	3.4
4 学校における働き方改革が推進され、職員の勤務時間の適正化、心身の健康の維持増進が図られていると感じる。	1.9	20.0	66.5	11.6	155	2.9
5 Classiや学校安心メール、ホームページ等による情報共有が効率的に行われている。	0.0	5.1	41.7	53.2	156	3.5
6 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	3.8	24.4	57.7	14.1	156	2.8
7 学校は、保護者に授業参観や公開授業の機会を適切に設けている。	2.6	25.0	49.4	23.1	156	2.9
8 学校は、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行っている。	2.6	16.0	57.1	24.4	156	3.0
9 学校は、生徒の学習意欲を喚起する取組を行っている。	3.8	22.4	57.1	16.7	156	2.9
10 学校では、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通して、生徒が自らの進路について考えるための取組を行っている。	1.9	13.5	56.4	28.2	156	3.1
11 学校は、進路に関する情報を保護者に適切に提供している。	6.5	36.8	41.3	15.5	155	2.7
12 学校は、生徒の学校生活に関する情報を保護者に適切に提供している。	4.5	24.4	47.4	23.7	156	2.9
13 子どもは、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶をしている。	3.2	9.6	58.3	28.8	156	3.1
14 学校では、生徒が自動的に活動する機会を設けている。	1.3	13.5	63.2	21.9	155	3.1
15 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	1.3	12.2	59.0	27.6	156	3.1
16 先生方は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる。	3.8	22.4	49.4	24.4	156	2.9
17 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	2.6	18.6	62.8	16.0	156	2.9
18 学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	5.2	22.7	60.4	11.7	154	2.8
19 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	1.3	9.7	57.8	31.2	154	3.2
20 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	2.6	21.9	62.6	12.9	155	2.9

(%) (人)



## 令和3年度 学校評価 集計表 <中学校教職員>

	(1) 全く当た ない(1点)	(2) あまり当 てない(2点)	(3) やや當 てはまら ない(3点)	(4) よく當 てはまる (4点)	回 答 数	平 均
① 知の触発プログラム、ピブリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	0.0	10.0	40.0	50.0	10	3.4
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.0	20.0	70.0	10.0	10	2.9
③ 中高一貫教育校としての組織体系が確立され、中高連携の取組が円滑に行われている。	10.0	60.0	30.0	0.0	10	2.2
④ タイムカード等による勤務時間の適正管理、管理職や産業医による面接体制が整っている。	0.0	10.0	60.0	30.0	10	3.2
⑤ ClassiやGoogleアプリを活用した情報共有により、業務効率化が図られている。	0.0	10.0	60.0	30.0	10	3.2
⑥ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	0.0	10.0	60.0	30.0	10	3.2
⑦ 学校は、授業力向上のための教科等研修会に参加する機会を適切に提供している。	0.0	20.0	70.0	10.0	10	2.9
⑧ 私は、職員間の授業見学や生徒による授業評価等を通して、授業改善に取り組んでいる。	10.0	10.0	80.0	0.0	10	2.7
⑨ 私は、各学期に実施される宿習時間調査を、家庭学習や読書等の指導に活用している。	0.0	30.0	70.0	0.0	10	2.7
⑩ 私は、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通して、生徒が自らの進路を考える取組を行っている。	0.0	0.0	70.0	30.0	10	3.3
⑪ 職員の共通理解を図り、学校として統一した方針の下進路指導が行われている。	0.0	60.0	40.0	0.0	10	2.4
⑫ 私は、進路に関する情報を生徒及び保護者に対し適切に提供している。	0.0	40.0	60.0	0.0	10	2.6
⑬ 職員の共通理解を図り、学校として統一した生徒指導が行われている。	0.0	30.0	70.0	0.0	10	2.7
⑭ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を指導している。	0.0	0.0	60.0	40.0	10	3.4
⑮ 学校は、生徒が自動的に活動する機会を設けている。	0.0	10.0	50.0	40.0	10	3.3
⑯ 学校は、生徒及び職員の人権意識の高揚を図る取組を適切に行っている。	0.0	10.0	60.0	30.0	10	3.2
⑰ 生徒理解研修等を通して、支援を要する生徒の実態把握と共通理解が図られている。	0.0	0.0	60.0	40.0	10	3.4
⑱ 個別の教育支援計画及び指導計画をもとに、必要な支援を適切に行っている。	0.0	10.0	50.0	40.0	10	3.3
⑲ 学校では、命を大切にする心を育む教育を適切に行っている。	0.0	20.0	60.0	20.0	10	3.0
⑳ 学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	0.0	20.0	30.0	50.0	10	3.3
㉑ 学校は、総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動を推進している。	0.0	0.0	70.0	30.0	10	3.3
㉒ 学校では、防災避難訓練や防災に関する取組を計画的に行っている。	0.0	10.0	70.0	20.0	10	3.1

